いわみの
（益高だより）

特別号⑫

平成２６年１２月４日

島根県立益田高等学校

本校生徒部では、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどによるトラブルを未然に防ぐ一助とするために「いわみの特別号」を発行し情報提供をしています。バックナンバーは益田高校のホームページにも掲載していますのでご覧ください。

益田高校に関するアンケート

このアンケートは１１月初旬に保護者の皆様に答えていただいたものです。この自由記述欄に一番多く書かれていたのがスマホに関することでした。その中でも特に多かった言葉が「依存症」で、次に多かったのが「学校への持ち込み」についてでした。

スマホ依存症

スマホについては詐欺などの被害、仲間はずれやいじめといったトラブルも心配なのですが、スマホ依存症はそれらよりも身近な問題ととらえられているようです。

インターネットで「スマホ依存症」を検索してみるといろいろ出てきました。目についたものをあげてみました。

- スマホ依存症のチェックリスト
- スマホ依存症６つの対策方法
- スマホ依存症から抜け出す 10 の方法
- 予備バッテリー・充電バッテリーを持ち歩かない、スマホをカバンに入れるようにする、中毒アプリをフォルダに隔離、めんどくさいパスワードを設定する
- ネット中毒の人の脳の損傷状態はアルコール中毒や薬物中毒と同程度の状態にまであるとの研究結果もあるようです。
- 酒やタバコと似ており、本人の意思だけで止めるのはなかなか難しいのかもしれません
- 2012 年に国立病院機構久里浜アルコール症センターのネット依存治療研究部門は、パソコンを含めた「インターネット依存」の傾向がある人の規模について、270 万人超と推計したことがある。また、厚生労働省研究班が 13 年に行った調査では 420 万人超とはじき出している。（中略）日本ではアルコール依存症の患者数が 100 万人超とみられていることを考えると、これはかなり深刻な数字といえる。

インターネットの情報なので全てが事実とは言い切れませんが、多くの人がスマホ依存症に脅威を感じているのではないでしょうか。

益田高校に関するアンケートでは、「スマホを握っている時間が多くて心配」などの回答もありましたが「家族でスマホの使い方についての会話をしているから安心している」などの回答もありました。益高でもＳＮＳについての指導を継続していきます。

学校への持ち込み

昨年も同じようなご意見をいただき、校内で検討しました。その結果、引き続き学校への持ち込みは禁止することを「いわみの特別号①」でお知らせしました（詳しくは益田高校のホームページの「いわみの（益高だより）」をクリックしてください）。今年度も持ち込みの許可についてのご意見をいただいたので、再度検討しているところです。

【裏面があります】

島根県教育委員会からのメールマガジンの記事を紹介します。

近年、インターネット上に投稿された不適切な書き込み、画像等が問題となり、投稿者の個人情報と合わせてインターネット上で拡散してしまうというケースが相次いでいます。

これらの書き込みは、一度拡散してしまうと、後から削除することは非常に困難になります。

そのことから入れ墨(タトゥー)に例えて、デジタルタトゥーという表現で呼ばれています。

■――――――――――――――――――――――――――――――――――■

インターネットへの投稿が大きなトラブルに発展した事例

■――――――――――――――――――――――――――――――――――■

昨年の夏、高校生の少年らが神戸の市営地下鉄の線路内に侵入して、ピースサインをしている写真を撮影し、Twitterに掲載しました。

少年らは恐らく、仲間内で目を引くために悪ふざけをしたのではないかと思われますが、ネットユーザーが投稿者の顔や名前から個人を特定し、少年らの個人情報をすぐにインターネット上に広めました。

その結果、少年らは鉄道営業法違反などの非行事実で家裁送致されることとなりましたが、広められた写真や個人情報は、いまだにインターネット上に残っています。

■――――――――――――――――――――――――――――――――――■

対策と適切な利用へ

■――――――――――――――――――――――――――――――――――■

では、こうしたトラブルを回避するためには、子供たちにどういったことを気をつけさせればよいのでしょうか。

インターネット上で情報を発信する際は、自分の発言が多くの他人の目に触れる可能性があることを意識し、その投稿内容に非難されるような不適切な内容が含まれていないかを、よく考える必要があります。

もしその投稿が不適切な内容を含んでいた場合、この事例のように、個人情報とともに拡散してしまう可能性があります。

これは実名で投稿した場合に限らず、匿名で投稿した場合でも同様で、写真の背景や過去の投稿内容などから、個人が特定されてしまうことがあります。

インターネットの世界は現実の世界の延長であり、インターネット上の行動が、現実の世界に大きな影響を及ぼす可能性があることを子供たちに認識させ、より有意義なインターネット利用ができるよう、指導していくことが大切です。